

福井大院生

社労士と高校授業立案



特定社会保険労務士とともに授業案を考える学生たち
(左側) = 6日、福井市の福井大文京キャンパス

労働問題を題材に

福井大の大学院生たちは、社会保険労務士と協働で、労働問題をテーマにした高校社会科の授業案づくりを進めている。専門的な知識を持った外部人材の力を借りることで質の高い主権者教育につなげたい考えだ。

橋本康弘教授が指導する、大学院教育学研究科修士課程人文社会教育コースの1年生5人。将来、中学

や高校で社会科を教える教師の「卵」たちだ。来年1月に奥越明成高の「現代社会」で授業するため、特定社会保険労務士の田中英孝さん(越前市)、青木基和さん(福井市)と10月から授業案を練っている。

先日2人を招いて行った講義では、田中さんが労働

法の概要について説明。ブラック企業や過重労働による自殺が社会問題となる中、労働者の権利や労働環境を学ぶ主権者教育の充実が求められると訴えた。学生たちは月の残業時間80時間の企業に入社したという前提で、どういった対策が有効かを話し合うアクティブ・ラーニングも体験した。

学生たちはこの日の講義や実践を踏まえ今後、高校生向けの授業案を組み立てていく。終了後、学生たちは「社労士の高度な知識を生かす授業をつくり、生徒たちが社会に出た時、役立つ態度や力を育てたい」とい

ずれ教師になったときも外部の方と連携できれば」と話していた。

(宇野)